



Q 次世代を担う青少年へ

A 道德教育の充実が大切



熊谷 初男 議員
(しののめ会)

A1 小学校段階から他者や社会と関わりを持つ体験を積み重ね、共に生きる自分への自信を育む必要があります。

教育の方針としては、
①「生きる力」豊かな人間性の育成、家庭と地域の協力で進める道德の時間の充実。
②自己の存在感・好ましい人間関係を育む学級・学年経営の充実を図り、互いに頼りにされていると実感できる教育。
③体験的な活動を位置づけた総合的な学習時間の充実。

Q1 わが国は、経済悪化の影響から青少年を取り巻く社会環境に課題が多く、子どもたちを巻き込む痛ましい事件・事故が毎日のように発生しています。

将来を担う子どもたちが健全で多くの夢を持ち、次世代の形成ができる人材の育成が大切です。

今、家庭での躰の度合いも低下していることから、社会の一員として必要とされる人間性、社会性を身に付けるため、家庭教育・社会教育の方針について伺います。



▲村チャグチャグスポーツクラブとスポーツ少年団との交流運動会

Q2 学力の低下が問題視される

昨年4月に行われた全国学力・学習意識調査の結果で本県は、「学年が進むにつれ学力低下、知識の理解度は高いが応用力が不十分」と出ています。

教育は、その成果をいかに日常生活にいかすかが重要であり、誰もが「学校は楽しい、勉強が面白い」と思える教育環境づくりが大切と考えますが、その取り組みについて伺います。

Q3 運動能力の向上をめざして

今の子どもたちは、運動能力・基礎体力が低下しています。

社会の二四時間化が進行し、子どもも夜型が多くなる危機的状況の中、運動能力の向上をめざす取り組みを伺います。

A3 各学校に「体力向上担当者」を位置づけ、組織的に取り組む体制づくりをしています。

本年度より国の責任で、※悉皆調査が決定され正確なデータが得られることに期待しています。

※悉皆：のこらず。すっかり。

A2 「ラーニングサポータープロジェクト事業」などの活用で学力向上の傾向にあります

が、「好きな授業がありますか」の質問に「そう思う」のポイントが全国平均以下であります。

本年度は、ステップアップアドバイザー派遣など教員の授業力向上により、自己の成長を実感できる授業になるものと期待しております。



Q 学校教育に問題ないか

A 不登校歯止めかからず



高橋 盛佳 議員 (新志会)



▲北京オリンピック女子サッカーの応援に盛り上がる

Q1 小中学での不登校の状況は、年間30日以上欠席している不登校の生徒は、17年度51人、18年度54人、19年度66人と本年度も7月末現在で42名となっており、依然として増加に歯止めがかかっていないのが現状です。

A1 全国学力・学習状況調査と岩手県学習定着状況調査の実施学年・教科毎の児童生徒の学力の現状を分析した結果、国語は、漢字力アップ事業等の取り組みの成果を確認することができました。

算数・数学・英語は、全体として、県の平均を下回っており、児童生徒の学習習慣の不足や算数・数学及び英語の教員の授業力に原因があると推測されます。

Q2 学力テストの結果は、
A2 全国学力・学習状況調査と岩手県学習定着状況調査の実施学年・教科毎の児童生徒の学力の現状を分析した結果、国語は、漢字力アップ事業等の取り組みの成果を確認することができました。

算数・数学・英語は、全体として、県の平均を下回っており、児童生徒の学習習慣の不足や算数・数学及び英語の教員の授業力に原因があると推測されます。

Q3 その他の課題は、
A3 「早寝」「早起き」「朝食摂取」などの基本的な生活習慣は、小・中学校とも良好です。

しかし、「ものごとを最後までやり遂げる」「困っている人を進んで助ける」「近所の人に挨拶する」「人の気持ちに分かる人になりたい」「いじめはいけない」「人の役に立つ人になりたい」など、人

Q4 北京オリンピック、村応援の成果は、
A4 延べ五回の参加者数は約二千二百人でした。

村民が一堂に会して応援でき、北京オリンピックは、子ども達にとっても、選手を身近に感じる機会となり、将来の目標の一つになったのではないかと考えています。

村をあげて取り組む姿が、テレビ放送や新聞で報道され、出身地滝沢村のPRにも繋がりました。

今後は、岩清水選手の「報告会」を開催したいと考えております。